

TORO®

後ローラ用ブラシ キット
Reelmaster® 3550 シリーズ 18" および 22" カッティングユニット用
モデル番号03918

オペレーターズマニュアル

この製品は、関連する全ての欧州指令に適合しています。詳細については、別添えの規格適合証明書DOCをご覧ください。

この後ローラ用ブラシキットは、乗用型の装置に取り付けて使用する専門業務用の製品であり、そのような業務に従事するプロのオペレータが運転操作することを前提として製造されています。この製品は、集約的で高度な管理を受けている公園、ゴルフ場、スポーツフィールドその他の芝生において、刈り込みユニットの後ローラに刈りかすがたまらないようにすることによって刈り跡の美観を向上させることを主たる目的として製造されております。

組み立て

付属部品

すべての部品がそろっているか、下の表で確認してください。

| 手順 | 内容 | 数量 | 用途 |
|----------|---------------|----|-----------------------------|
| 1 | 必要なパーツはありません。 | – | 取り付けに必要なものを準備する |
| 2 | 必要なパーツはありません。 | – | ローラブラシとリールモータの取り付け方向を確認します。 |



| 手順 | 内容 | 数量 | 用途 |
|----|--|--|----------------|
| 3 | 18" ローラブラシハウジング 22" ローラブラシハウジング 六角ソケットボルト $\frac{3}{8}$ x 1" 18" 右側ローラブラシアセンブリ 22" 右側ローラブラシアセンブリ 18" 左側ローラブラシアセンブリ 22" 左側ローラブラシアセンブリ ショルダボルト 18" 右側ベルトカバー/プレートアセンブリ 22" 右側ベルトカバー/プレートアセンブリ 18" 左側ベルトカバー/プレートアセンブリ 22" 左側ベルトカバー/プレートアセンブリ ボルト5/16 x $\frac{5}{8}$ " スペーサ 18" 駆動プーリ 22" 駆動プーリ フランジヘッドボルト ($\frac{3}{8}$ x 1 $\frac{1}{4}$ ") フランジヘッドボルト $\frac{3}{8}$ x 2" 18" ベルト 22" ベルト シムワッシャ必要に応じてベルトの整列 に使用 18" 右側駆動シャフト 22" 右側駆動シャフト 18" 左側駆動シャフト 22" 左側駆動シャフト 90度グリスフィットティング バンパーセンブリ ボルト $\frac{1}{4}$ x 2" ブラシシャフト用スペーサ 受動プーリ用スペーサ 受動プーリ フランジナット $\frac{3}{8}$ " 22" 直定規 | 3 2 10 1 1 2 1 5 1 1 2 2 10 3 3 2 2 3 2 3 2 2 1 5 1 1 2 1 2 1 4 2 2 2 2 1 | ローラブラシを取り付けます。 |
| 4 | 必要なパーツはありません。 | - | 高刈りブラシの取り付け |

重要前後左右はカッティングユニットを後ろからみた時の方向で表します。

重要18" ローラブラシキットは、刈高が 6-25 mm の範囲でのみ使用可能です。刈高が25mmを超える場合には、高刈り用ブラシパーツ番号 121-3199を使用してください。「高刈り用ブラシの取り付け」を参照してください**4 18" 高刈りブラシオプションの取り付け (ページ 11)**。22" 後ローラ用ブラシキットには、高刈り用ブラシがすでに取り付けられています。

リールマスター 3550 トラクションユニットには、後ローラブラシキットモデル 03918を取り付けることができます

- 前用 18" カッティングユニット モデル03911, 03912, 03480, 03481, 03485, 03486
- 後用 22" カッティングユニット モデル03913, 03482, 03480, 03483, 03487, 03488

1

取り付けに必要なもの

必要なパーツはありません。

手順

取り付け作業にかかる前に、以下の工具類を準備してください

- $\frac{1}{2}$ " 深穴ソケット
- $\frac{9}{16}$ " 深穴ソケット
- $\frac{7}{8}$ " 深穴ソケット
- $\frac{1}{2}$ " レンチ
- $\frac{9}{16}$ " レンチ
- $5/16$ 六角レンチ
- 12 " 直定規 パーツ番号 114-5446
- トルクレンチ $20\text{-}25 \text{ N.m} = 2.1\text{-}2.6 \text{ kg.m} = 15\text{-}19 \text{ ft-lb}$ 用
- トルクレンチ $36\text{-}45 \text{ N.m} = 3.8\text{-}4.5 \text{ kg.m} = 27\text{-}33 \text{ ft-lb}$ 用
- トルクレンチ $47\text{-}54 \text{ N.m} = 4.9\text{-}5.5 \text{ kg.m} = 35\text{-}40 \text{ ft-lb}$ 用
- トルクレンチ $115\text{-}128 \text{ N.m} = 12\text{-}13 \text{ kg.m} = 85\text{-}95 \text{ ft-lb}$ 用
- トルクレンチ $2\text{-}3 \text{ N.m} = 0.23\text{-}0.29 \text{ kg.m} = 20\text{-}25 \text{ inch-lb}$ 用
- ロクタイト 242 青
- ねじ山付きインサートツール Toro P/N TOR4112
- $5/16\text{-}18$ タップ

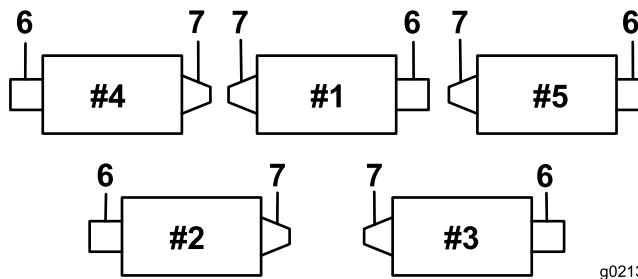
2

ローラブラシの取り付け方向を確認する

必要なパーツはありません。

手順

どのカッティングユニットも、カウンタウェイトをカッティングユニットの左側に取り付けて出荷しています。図1を見て後ローラとリールモータの位置を確認してください。



g021370
g021370

図 1

- | | |
|---------------------|---------------------|
| 1. $18"$ カッティングユニット | 5. $18"$ カッティングユニット |
| 2. $22"$ カッティングユニット | 6. モータ |
| 3. $22"$ カッティングユニット | 7. ローラブラシ・ドライブ |
| 4. $18"$ カッティングユニット | |

注 この説明書では、カッティングユニットの左側にカウンタウェイトを取り付ける場合を例にして、キットの取り付け手順を解説します。

3

ローラブラシを取り付ける

この作業に必要なパーツ

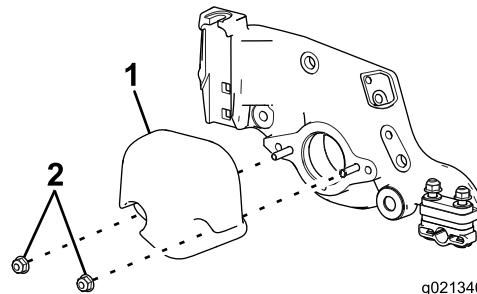
| | |
|----|--|
| 3 | 18" ローラブラシハウジング |
| 2 | 22" ローラブラシハウジング |
| 10 | 六角ソケットボルト $\frac{3}{8}$ x 1" |
| 1 | 18" 右側ローラブラシアセンブリ |
| 1 | 22" 右側ローラブラシアセンブリ |
| 2 | 18" 左側ローラブラシアセンブリ |
| 1 | 22" 左側ローラブラシアセンブリ |
| 5 | ショルダボルト |
| 1 | 18" 右側ベルトカバー/プレートアセンブリ |
| 1 | 22" 右側ベルトカバー/プレートアセンブリ |
| 2 | 18" 左側ベルトカバー/プレートアセンブリ |
| 1 | 22" 左側ベルトカバー/プレートアセンブリ |
| 10 | ボルト $5/16$ x $5\frac{1}{8}$ " |
| 3 | スペーサ |
| 3 | 18" 駆動プーリ |
| 2 | 22" 駆動プーリ |
| 3 | フランジヘッドボルト ($\frac{3}{8}$ x $1\frac{1}{4}$ ") |
| 2 | フランジヘッドボルト $\frac{3}{8}$ x 2" |
| 3 | 18" ベルト |
| 2 | 22" ベルト |
| 5 | シムワッシャ必要に応じてベルトの整列に使用 |
| 1 | 18" 右側駆動シャフト |
| 1 | 22" 右側駆動シャフト |
| 2 | 18" 左側駆動シャフト |
| 1 | 22" 左側駆動シャフト |
| 5 | 90度グリスフィットティング |
| 1 | バンパーアセンブリ |
| 4 | ボルト $\frac{1}{4}$ x 2" |
| 2 | ブラシシャフト用スペーサ |
| 2 | 受動プーリ用スペーサ |
| 2 | 受動プーリ |
| 2 | フランジナット $\frac{3}{8}$ " |
| 1 | 22" 直定規 |

手順

1. 平らな場所に停車して駐車ブレーキを掛ける。
2. カッティングユニットが OFF になっていることを確認する。
3. エンジンを止め、キーを抜き取る。
4. 全部のカッティングユニットをトラクションユニットから外す。

重要 カッティングユニットを希望の刈高および姿勢下刃角度にセットする。必要に応じて、後ローラブラシの取り付け前に、オペレーターズマニュアルにしたがってカッティングユニットの再設定を行なってください。

5. ナットを外して、カッティングユニットからカウンタウェイトを外す図 2。

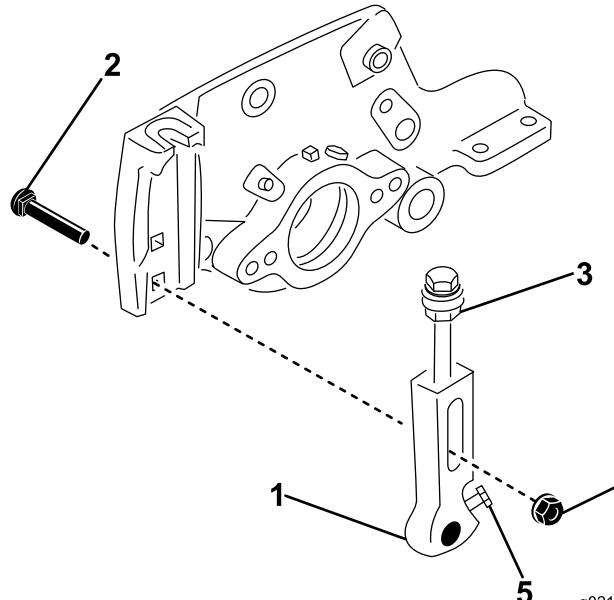


g021340

図 2

1. カウンタウェイト
2. ボルト

6. 22" カッティングユニット用2番と3番図 1ローラブラシ側のみ。刈高ブラケットを外す図 3。



g021339
g021339

図 3

1. 刈高ブラケット
2. キャリッジボルト
3. ナットゆるめる
4. ナット外す
5. ナットゆるめる

7. 22" カッティングユニット用2番と3番図1ローラブラシ側のみ。サイドプレートを外す必要なボルト・ナット類は外し、後ローラのクランプのナットはゆるめる必要がある図4。

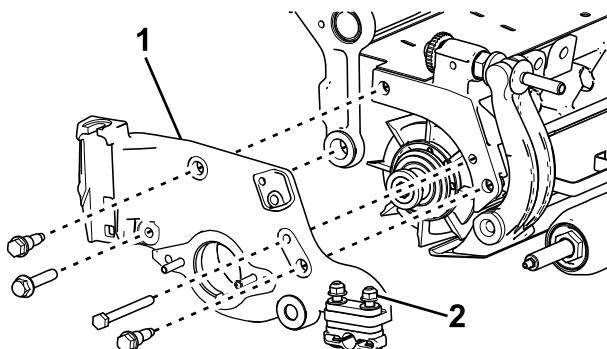


図4

1. サイドプレート 2. 後ローラクランプナット

8. 22" カッティングユニット用2番と3番図1ローラブラシ側のみ。サイドプレートからボルトを外す。

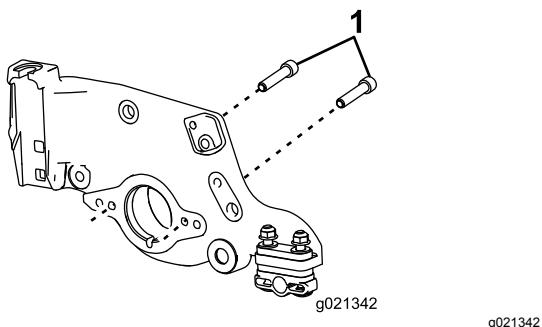


図5

1. ボルト

9. 22" カッティングユニット用2番と3番図1ローラブラシ側のみ。カッティングユニットに、サイドプレートと刈高ブラケットを元通りに取り付ける。
10. 刈り込みリールが回転しないように固定するねじ付きインサートを外すためにリールを固定するには(ページ14)を参照。
11. カッティングユニットのねじ山付きインサートを外して捨てる図6。

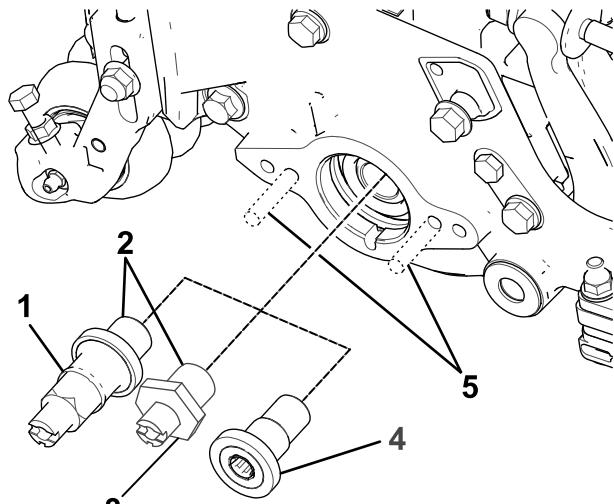


図6

1. 18" 駆動シャフト 4. ねじ山付きインサート左ねじインサートにはリングがついている
2. ここに242ロックタイト青を塗る 5. 22" のカッティングユニットから外したボルトのみ
3. 22" 駆動シャフト

注 左ねじインサートがついているカッティングユニットは、1番、3番、5番です図1。

12. 取り付け中に刈り込みリールが回転しないように固定するねじ付きインサートの着脱のためにリールを固定するには(ページ15)を参照。
13. 駆動シャフトのねじ山図6にロックタイト242青を塗り、駆動シャフトを取り付けてトルク締めする $115\text{--}128 \text{ N}\cdot\text{m}$ $15.9\text{--}17.7 \text{ kg}\cdot\text{m}$ = $85\text{--}95 \text{ ft-lbs}$ 。

注 18" カッティングユニットには 18" の駆動シャフト、22" カッティングユニットには 22" の駆動シャフトを間違いなく取り付けてください。

14. ローラブラシのハウジングにOリングがついていることを確認する図7と図8。

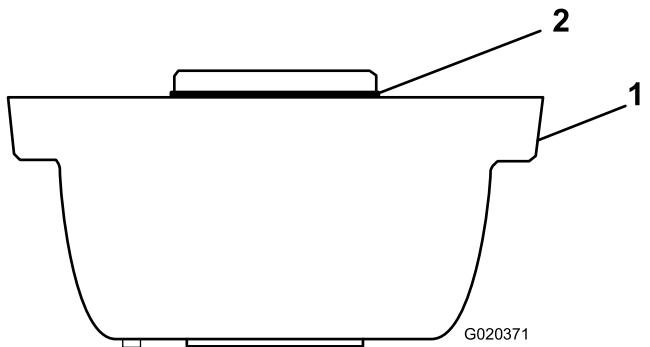


図7

18" カッティングユニット

1. ローラブラシハウジング 2. リング

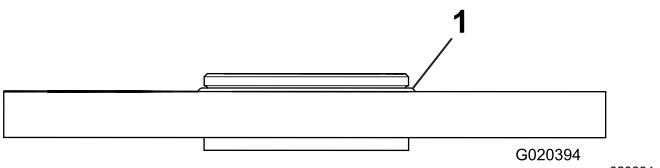


図 8
22" カッティングユニット

1. リング

15. 18" カッティングユニットの場合のみ ローラブラシハウジングの近くにあるグリスフィットティングストレーを外して、代わりに90°フィットティングを取り付ける図 9。

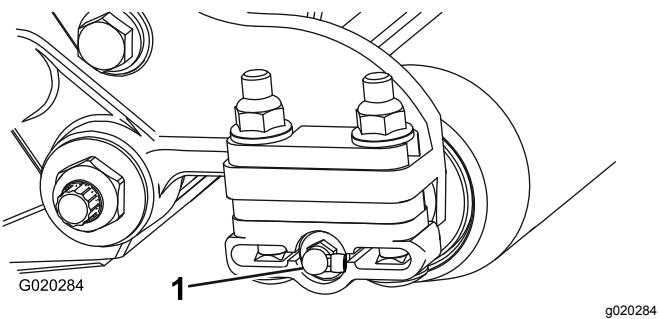


図 9

1. 90° グリスフィットティング

16. ローラブラシハウジングを、リールベアリングハウジングに取り付ける六角ソケットボルト $\frac{3}{8} \times 1\frac{1}{2}$ 本を使用図 10 と 図 11。Oリングがカッティングユニットの方を向くようにローラブラシハウジングをセットする。

注 ローラブラシハウジングにOリングが正しい向きで取り付けられていることを確認する。

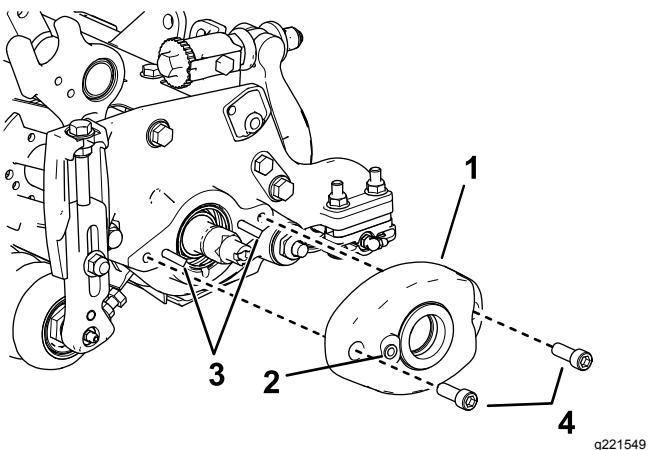


図 10
18" カッティングユニット

- | | |
|-------------------|------------------------|
| 1. ローラブラシハウジング | 3. カッティングユニットのボルト取り付ける |
| 2. ハウジングに開けてあるねじ穴 | 4. 六角ソケットボルト |

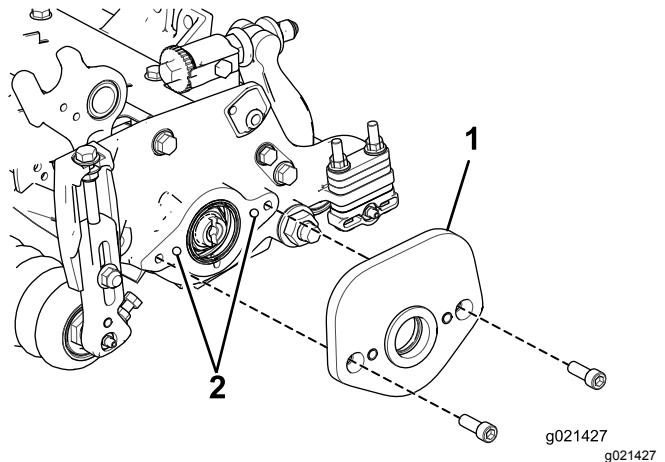


図 11
22" カッティングユニット

- | | |
|----------------|-----------------------|
| 1. ローラブラシハウジング | 2. カッティングユニットのボルト取り外す |
|----------------|-----------------------|

17. 各ローラブラケットをサイドプレートに固定している2本のフランジロックナットを外す図 12。

注 ボルトは外さないでください。また、サイドプレート取り付けフランジの上部についている6mmスペーサはすべて取り外してください。

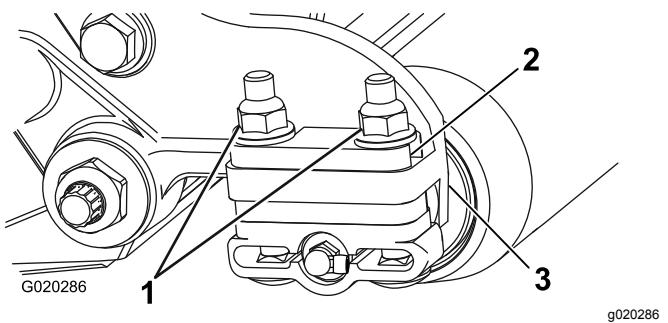
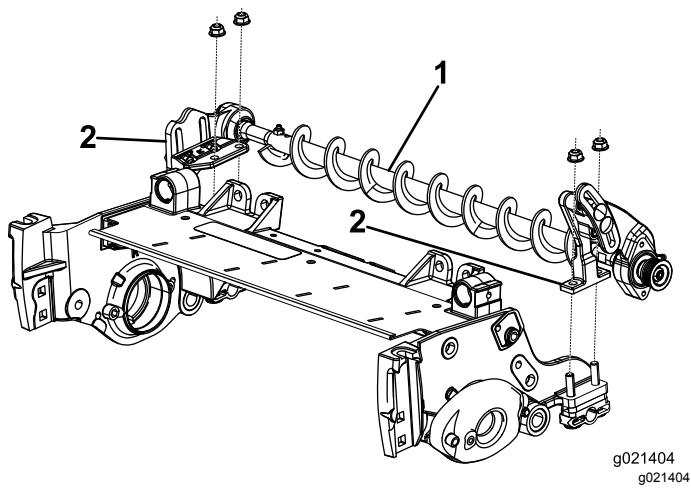


図 12

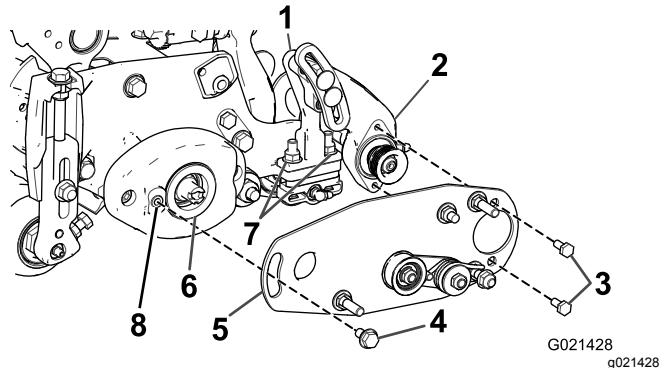
- | | |
|----------------------------|---------------------|
| 1. ローラの左右の端部を固定しているナットを外す。 | 3. サイドプレートの取り付けフランジ |
| 2. 6mm スペーサ | |

18. 左または右ローラブラシアセンブリ取り付けブラケットを、ローラブラケットボルトにセットする図 13。

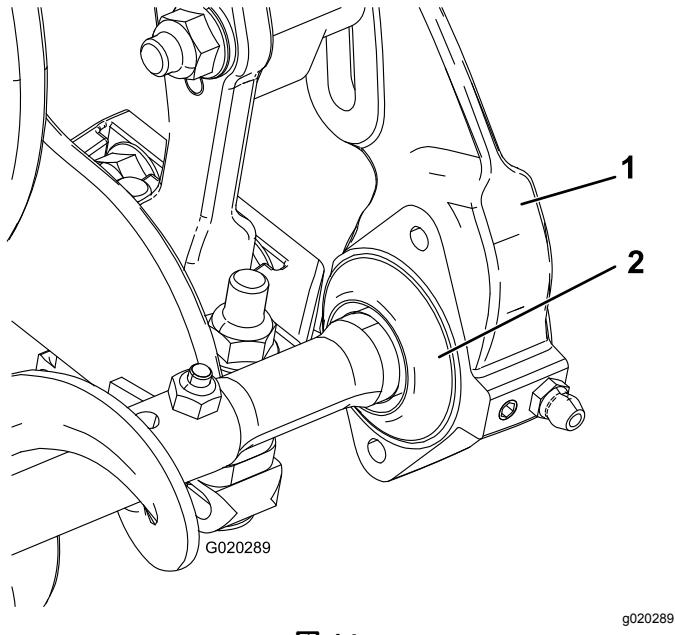


1. 左側ローラブラシアセンブリ 2. ローラブラシ取り付けブラケット

21. ベアリングハウジング内部のハトメの内径部分にグリスを塗る図 15 と 図 16。



- | | |
|----------------------|-------------------------|
| 1. ローラブラシ取り付けブラケット | 5. ローラブラシピボットプレートアセンブリ |
| 2. ローラブラシベアリングのハウジング | 6. ベアリングハウジングのハトメ |
| 3. ボルト | 7. フランジロックナット |
| 4. ショルダボルト | 8. ねじ山部分についているペイントを除去する |



- | | |
|------------------|-------------------------|
| 1. ブラシシャフト用スペーサー | 5. ワッシャ |
| 2. ブラシプレート | 6. スペーサ |
| 3. ボルト | 7. ねじ山部分についているペイントを除去する |
| 4. ショルダボルト | |

22. ローラブラシベアリングハウジングを取り付けブラケットに固定しているボルトをゆるめる外さないこと図 15 と 図 16。

23. **22" カッティングユニットの場合のみ** ブラシシャフト用スペーサを所定位置にスライドさせる図 16。

24. 左または右ローラブラシ・ピボットプレートを取り付ける図 15 と 図 16。

注 ピボットプレートの突き出し部をベアリングハウジングのグロメットに挿入するときに、グロメットがハウジングに正しく着座しているのを確認すること。

1. エクスクルーダシール 2. ベアリングハウジング

20. ブラシアセンブリ取り付けブラケットを、カッティングユニットのサイドプレートに固定する先ほど取り外したナットを使用。

重要 ローラブラシアセンブリ取り付けブラケットは、カッティングユニットのサイドプレート取り付けフランジの上面に直接固定する必要があります。ローラブラシ取り付けブラケットとサイドプレート取り付けフランジとの間にスペーサなどを挟まないでください。後に使う可能性を考え、残っている6mm スペーサは保管してください。

注 ローラブラシ・ピボットプレートを動作させたときにグロメットゴムからの抵抗がまったくなく、自由にピボット動作できれば、取り付けは適切です。

注 底部に、アイドラブーリ・アセンブリが 図 15 および 図 16 のように取り付けられていることを確認してください。

25. ボルト $5/16 \times \frac{5}{8}$ " 2本に、242 ロクタイト青を塗り、この2本のボルトでブラシプレートをローラブラシベアリングハウジングに取り付ける 図 15 と 図 16。ボルトを $20-25 \text{ N}\cdot\text{m} 2.1-2.6 \text{ kg.m} = 15-19 \text{ ft-lb}$ にトルク締めする。
26. ローラブラシプレートがカッティングユニットのサイドプレートに平行になっているかどうか点検する。平行でない場合は、以下の作業を行う
 - ローラブラシ取り付けブラケットをカッティングユニットのサイドプレートに固定しているフランジロックナット2個をゆるめる 図 15 と 図 16。
 - ローラブラシベアリングハウジングを回転させて、ブラシプレートがカッティングユニットのサイドプレートと平行になるようにする 図 15 と 図 16。
 - ローラブラシ取り付けブラケットをカッティングユニットのサイドプレートに固定しているフランジロックナット2個を本締めする 国 15 と 国 16。
27. 各ローラブラシベアリングハウジングをローラブラシ取り付けブラケットに固定しているボルト2本をゆるめる 国 17。

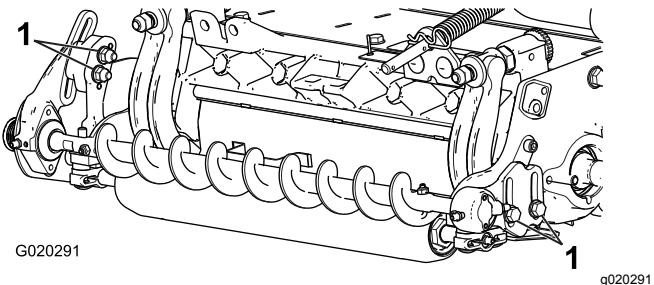


図 17

1. これらのボルトをゆるめる。

28. ローラブラシが、後ローラに軽く接触するローラに軽く載った状態になるようにローラブラシの位置を決める 国 18。

重要 ローラブラシのシャフトがカッティングユニットのサイドプレートに接触してはいけません。

重要 ローラとブラシが強く接触しすぎると、ブラシが早く磨耗してしまいます。

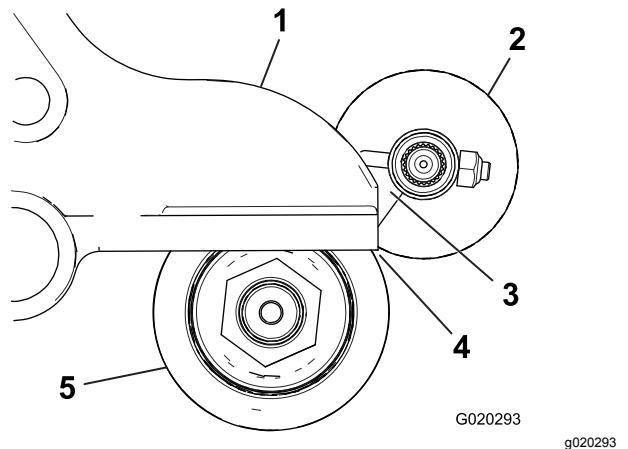


図 18

- | | |
|------------------|---------|
| 1. サイドプレート | 4. 軽い接触 |
| 2. ローラブラシ | 5. 後ローラ |
| 3. ここにすき間をつくること。 | |

注 ローラブラシのシャフトが後ローラに対して平行でなければいけません。

注 非駆動側のローラブラシベアリングハウジングの取り付け向きは、駆動側ハウジングと同じ向きでなければいけません。

29. 各ローラブラシベアリングハウジングをローラブラシ取り付けブラケットに固定しているボルト各 2 本を締め付ける。
30. カッティングユニットにショルダーボルトを入れる前に、 $5/16-18$ タップを使ってねじ山をきれいに掃除する 国 15 と 国 16。

重要 ねじ山が汚れたままショルダーボルトを締め込むと、ボルトがねじ山のところで折れる可能性がある。

31. ショルダーボルトに 242 ロクタイト青を塗る 国 15 と 国 16。
32. ショルダーボルトを使って、ブラシプレートをローラブラシ・ハウジングに取り付ける。 国 15 と 国 16。

注 ボルトを $20-25 \text{ N}\cdot\text{m} 2.1-2.6 \text{ kg.m} = 15-19 \text{ ft-lb}$ にトルク締めする。

注 ショルダーボルトがプレートをハウジングに対して締め付けてはいけません。

33. ベアリングハウジングのシャフトにスペーサを挿入する 国 19。

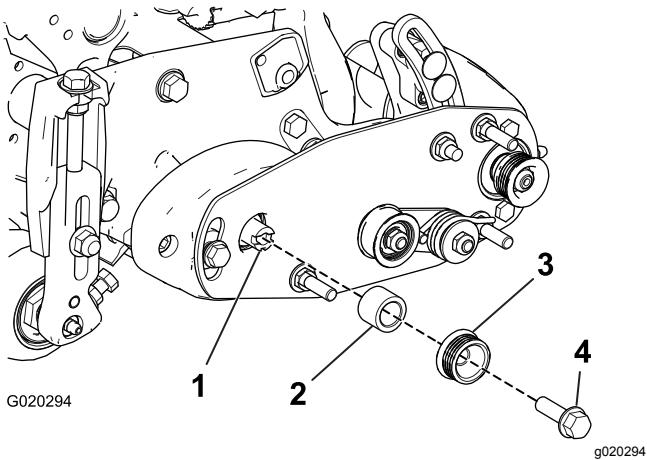


図 19
18" カッティングユニット

- | | |
|-----------|--|
| 1. 駆動シャフト | 3. 駆動ブーリ |
| 2. スペーサ | 4. ボルト $\frac{3}{8} \times 1\frac{1}{4}$ " |

34. スペーサに駆動ブーリを挿入し、駆動シャフトにはめる図 19 と図 20。

注 ブーリのタブが駆動シャフトのスロットにきっちりと嵌まるように取り付けること。

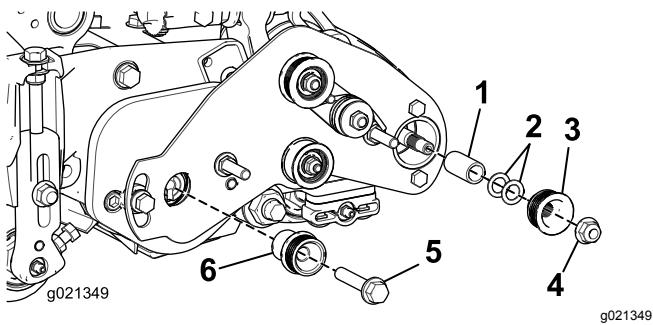


図 20
22" カッティングユニット

- | | |
|----------|--------------------------------|
| 1. スペーサ | 4. フランジナット |
| 2. ワッシャ | 5. ボルト $\frac{3}{8} \times 2"$ |
| 3. 受動ブーリ | 6. 駆動ブーリ |

35. ブーリとスペーサを駆動シャフトに固定するフランジヘッドボルト $\frac{3}{8} \times 2"$ 1本を使用する図 19 と図 20。

注 ボルトを 47-54 N·m 4.9-5.5 kg.m = 35-40 ft-lb にトルク締めする。

重要ボルトが正しくトルク締めされていないと、ボルトがゆるんできます。

36. 22" カッティングユニットの場合のみ スペーサと受動ブーリをロックナットで取り付ける図 20。
37. 以下の手順で、ブーリにベルトを取り付ける
- 駆動ブーリにベルトを掛け、次に、アイドラブーリの上部にかける図 21 と図 22。

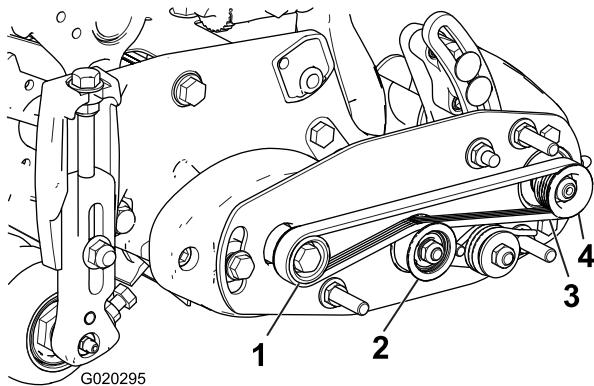


図 21
18" カッティングユニット

- | | |
|-----------------|----------|
| 1. 駆動ブーリ | 3. ベルト |
| 2. アイドラブーリアセンブリ | 4. 受動ブーリ |

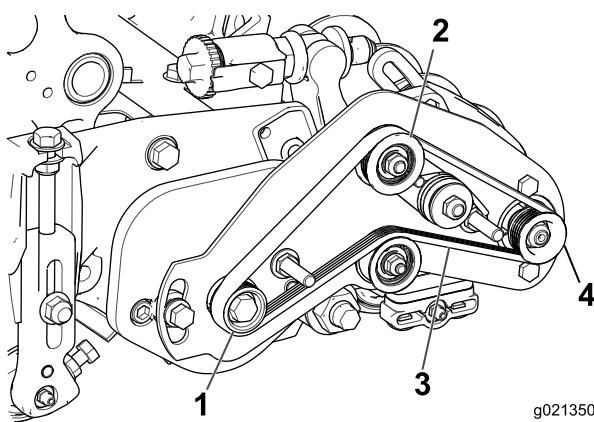


図 22
22" カッティングユニット

- | | |
|-----------------|----------|
| 1. 駆動ブーリ | 3. ベルト |
| 2. アイドラブーリアセンブリ | 4. 受動ブーリ |

- 受動ブーリにベルトをかける図 21 と図 22。
- 9/16" 深穴ソケットを使ってブラシアセンブリを回転させながら、ベルトを受動ブーリに掛けまわす図 23。

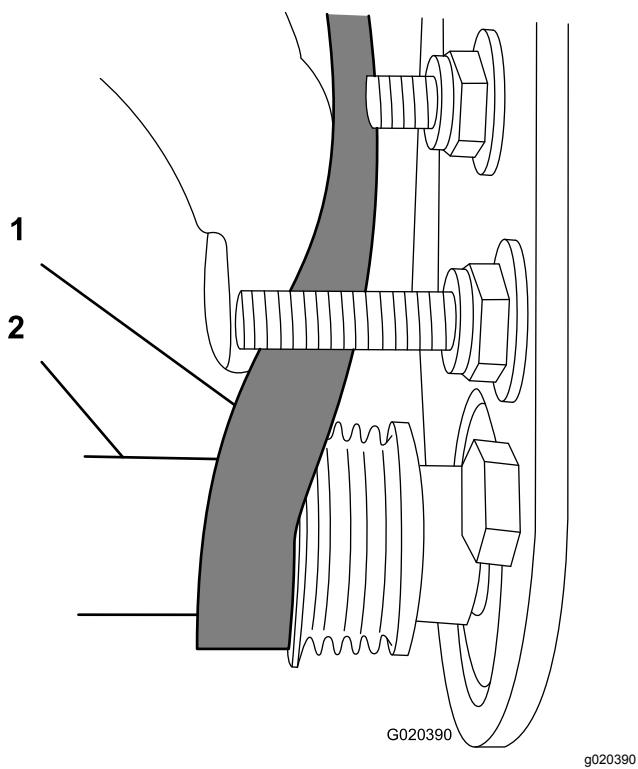


図 23

1. ベルト
2. 9/16" 深穴ソケット

重要ベルトのリブが、各プーリの溝にきちんとまるように取り付けること。また、ベルトがアイドラプーリの中心を通るようにすること。

38. アイドラプーリを手で押し下げて、アイドラプーリアセンブリが自由にピボット動作することを確認する。
39. ベルトとプーリの整列を以下の要領で点検する
- ・ ベルトの整列は、ベルトが適切な張りに調整取り付けられた状態で行なう。
 - ・ 駆動プーリの外側面に直定規を当てる図 24 と図 25。駆動プーリと受動プーリの両方に直定規を当てないこと。

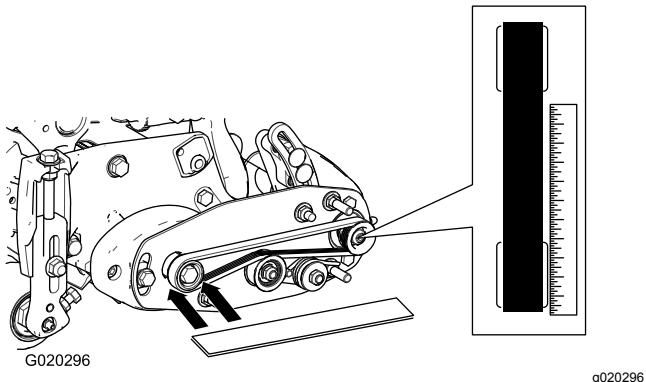


図 24
18" カッティングユニット

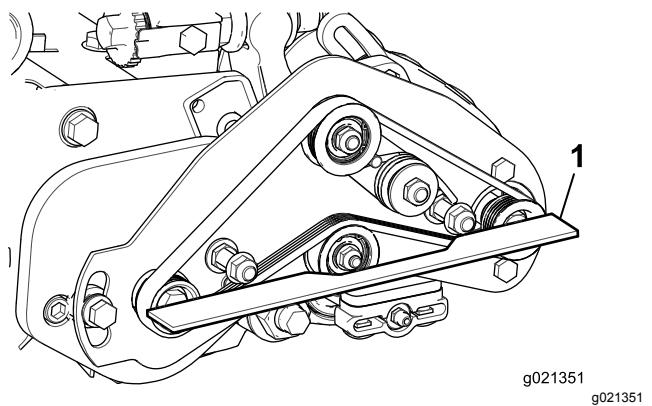


図 25
22" カッティングユニット

1. 直定規

- ・ 駆動プーリと受動プーリの外側面が面一であること誤差 0.76mm以内。
- ・ プーリが整列していない場合には整列させる [プーリの整列の点検と調整 \(ページ 13\)](#) を参照。
- ・ 整列している場合には、取り付けを続ける。
- ・ アイドラプーリで調整を行ってはならない。

重要プーリが正しく整列していないと、ベルトが早期に破損する恐れがある。

40. ベルトカバーを取り付けボルトにセットし、フランジナット2個で固定する図 26 と図 27。

重要ナットを締め付けすぎるとカバーが破損するので注意すること。

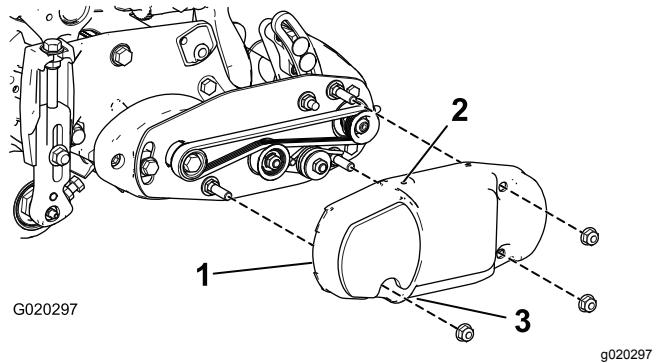


図 26
18" カッティングユニット

1. ベルトカバー
2. 固定ねじを取り付ける
3. 固定ねじを取り外す

4

18" 高刈リブラシオプションの取り付け

必要なパーツはありません。

手順

刈高設定が 25mm を超える場合サイドプレートのパッドの下のスペーサーが 5枚以上になる場合には、高刈リブラシ パーツ番号 121-3199を取り付けてください。

1. カッティングユニットにローラブラシが取り付けられている場合には、非駆動側ベアリングハウジングをベアリングハウジング取り付けブラケットに固定しているボルト2本を外す図 30と図 31。

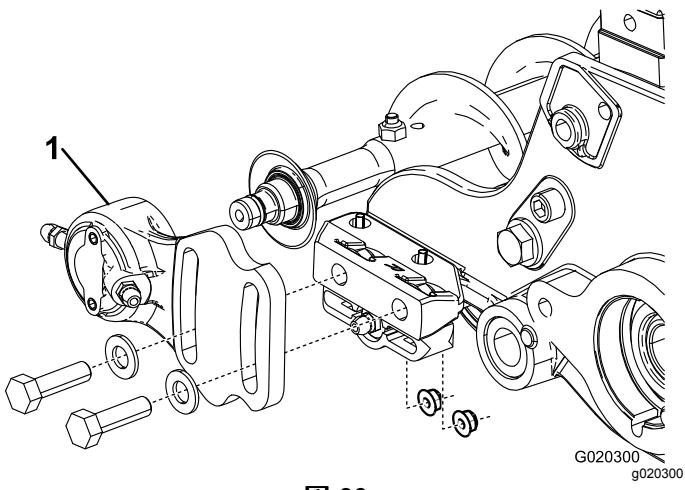


図 30

1. 非駆動側ベアリングハウジング
2. 非駆動側ベアリングハウジングとエクスクルーダーシールをシャフトから取り外す図 31。

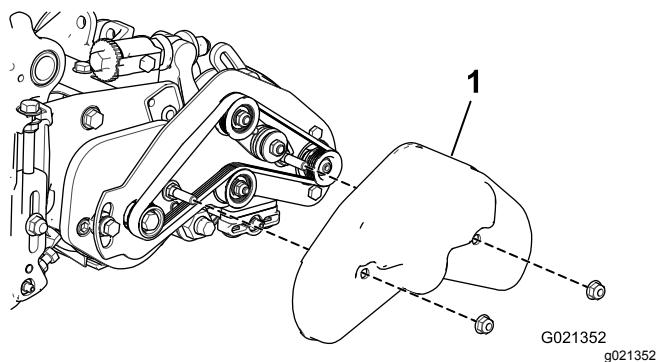


図 27
22" カッティングユニット

1. ベルトカバー
41. 左右のローラブラシベアリングハウジングのグリス注入部から、No.2汎用リチウム系グリスを注入する図 28。

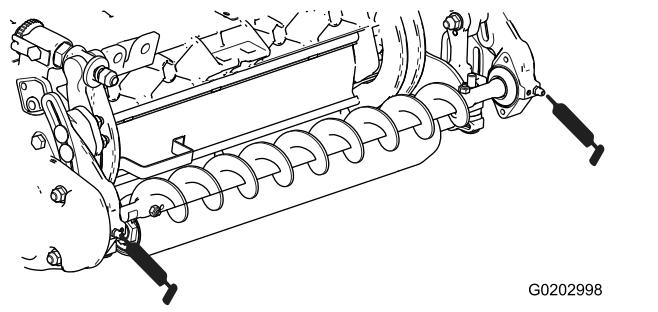


図 28

42. はみ出したグリスはふき取る。特にエクスクルーダ・シールの周囲に残さないこと。
43. 22" カッティングユニットの場合のみ バンパーアセンブリを機体に取り付けるボルト2本とロックナットを使用 図 29。

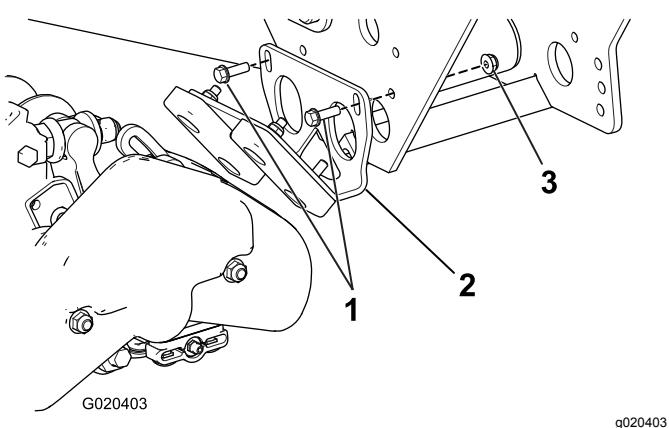


図 29

1. ボルト
2. バンパーアセンブリ
3. ロックナット

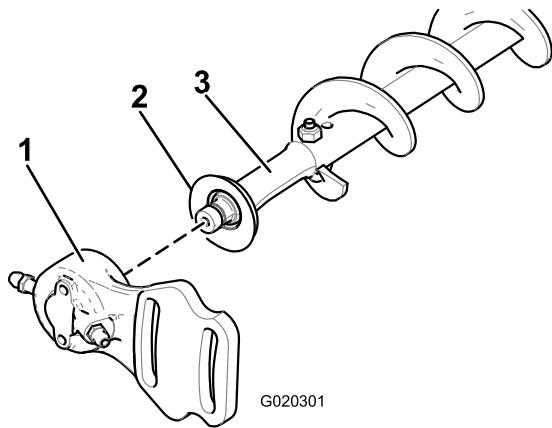


図 31

1. 非駆動側ベアリングハウジング
2. エクルクルーダシール
3. ブラシシャフト

g020301

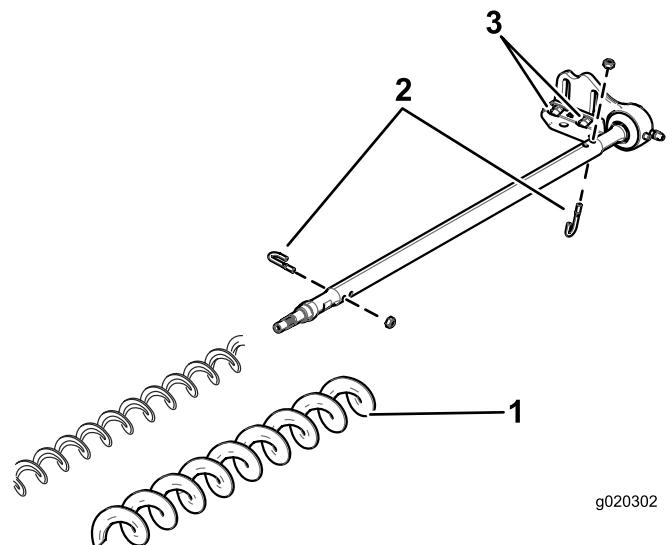


図 32

3. ボルトとナット各 2 を外す図 32。
 4. ブラシシャフトについている既存のブラシを抜き取る図 32。
 5. 駆動側ベアリングハウジングをベアリングハウジング取り付けブラケットに固定しているボルト各 2 本とワッシャおよびナットをゆるめる図 32。
 6. ブラシシャフトに、高刈り用ブラシを取り付ける図 32。
 7. 先ほど外した J ボルトとナット各 2 を使って、ブラシをシャフトに固定する図 32。
- 重要** ボルトのねじ切りされている側を、ブラシシャフトの外側の穴に通し、字に曲がっている側を内側の穴に引っ掛ける。
8. J ボルトのロックナットを 2-3 N·m(0.23-0.29 kg·m = 20-25 in-lb)にトルク締めする。

1. 高刈り用ブラシ
 2. ボルト
 3. これらのボルトをゆるめる。
-
9. 非駆動側ベアリングハウジングとエクスクラーダ・シールをブラシシャフトに取り付ける図 31。
 10. 先ほど外したボルト 2 本とワッシャおよびナットを使って、非駆動側ベアリングハウジングをベアリングハウジング取り付けブラケットに固定する。シールスプリングを落とさないように注意すること。
 11. 駆動側ベアリングハウジングをベアリングハウジング取り付けブラケットに固定しているボルト各 2 本とワッシャおよびナットを締め付ける。

保守

1. ブラシがローラと平行になっていること、ローラとの間のすき間が1.50 mmで軽い接触があることを確認する。
2. 50運転時間ごと、また、機体を洗浄したときはその直後にグリスアップを行なう。
3. ローラブラシを交換した場合には、Jボルトを2-3 N·m0.23-0.29 kg.m = 20-25 in-lbにトルク締めする。
4. ブラシシャフトの受動プーリを交換した場合には、ナットを3645 N·m3.7-4.7 kg.m = 27-33 ft-lbにトルク締めする。
5. ブラシの駆動プーリを交換した場合には、ボルトを47-54 N·m4.8-5.5 kg.m = 35-40 ft-lbにトルク締めする。
6. ローラブラシ、アイドラベアリング、ベルトは消耗部品です。

プーリの整列の点検と調整

1. 受動プーリローラのシャフト位置は内外に動かすことができます図33。
- 注** プーリをどちらに動かす必要があるのか確認する。

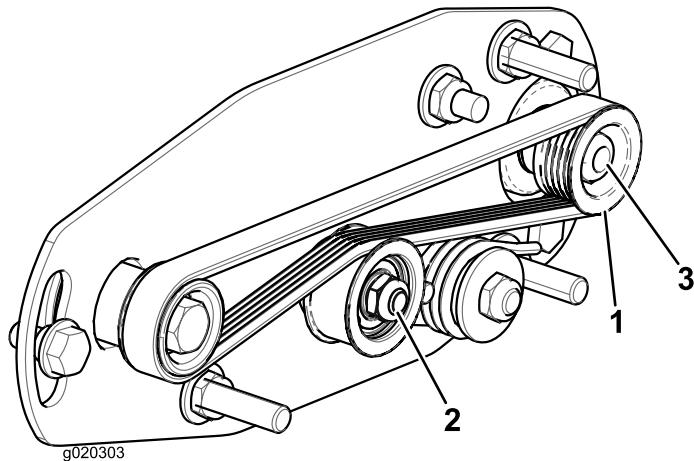


図33

1. 受動プーリ
 2. アイドラプーリアセンブリ
 3. 受動プーリのナット
2. リールを回しながらつままり駆動プーリを回しながら、駆動プーリからベルトをはずす図35。

注 リールを回すときにはパッドのついている手袋や厚いウェスなどを使用してください。

3. 受動プーリをブラシシャフトに固定しているロックナットを取り外す図33または図34。

注 シャフトが回転しないように、ローラブラシシャフトの平面に½"レンチを差し込んでください。

4. シャフトから受動プーリを取り外す図34。

注 プーリを外側に出したい場合には、0.8mm 0.032"厚のスペーサを1枚入れる図34。プーリを内側に入れたい場合には、0.8mm 0.032"厚のスペーサを1枚抜き取る。

5. プーリを取り付ける。

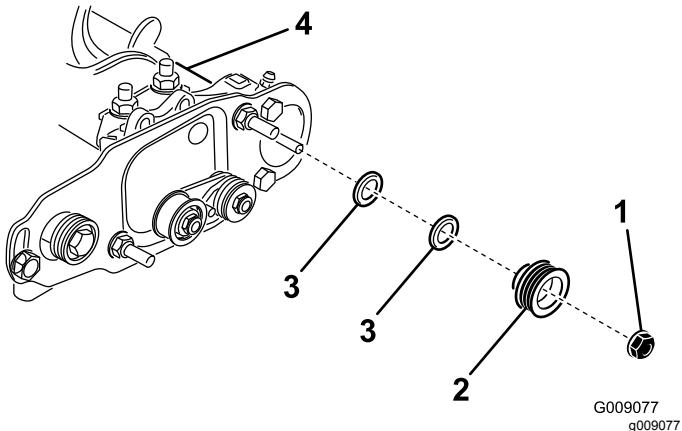


図34

1. ロックナット
 2. 受動プーリ
 3. スペーサ厚さ 0.8mm
 4. ブラシシャフトの平面
6. ローラブラシのシャフトの平面を押さえながら、先ほど外したフランジナット3/8-16を使って、プーリをシャフトに固定する。
- 注** ロックナットをセットし、36-45 N·m3.8-4.5 kg.m = 27-33 ft-lbにトルク締めする。
7. 以下の手順で、プーリにベルトを取り付ける
 - 駆動プーリにベルトを掛け、次に、アイドラプーリの上部に掛ける図21。

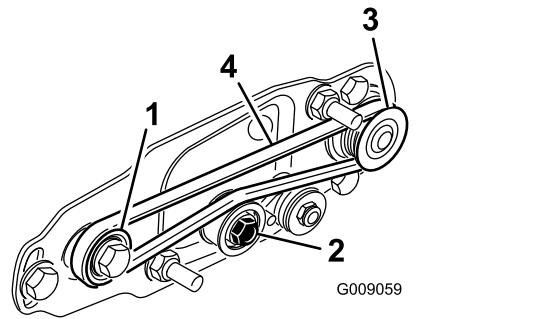


図35

1. 駆動プーリ
2. アイドラプーリアセンブリ
3. 受動プーリ
4. ベルト

- 受動プーリからベルトを掛け始める図 21。
- 9/16" 深穴ソケットを使ってブラシアセンブリを回転させながら、ベルトを受動プーリに掛けまわす図 36。

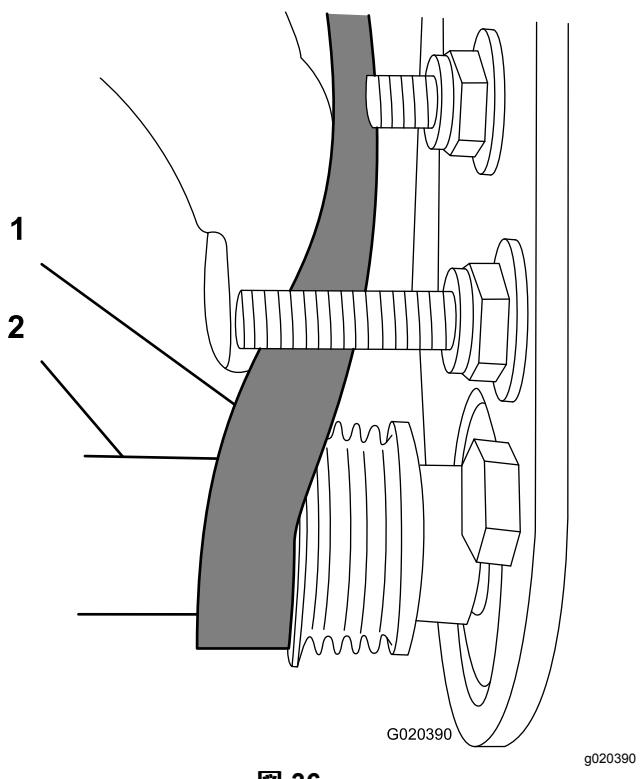


図 36

1. ベルト

2. 9/16" 深穴ソケット

重要ベルトのリブが、各プーリの溝にきちんとまるよう取り付けること。また、ベルトがアイドラプーリの中心を通るようにすること。

- プーリの整列をもう一度点検する必要に応じて点検を繰り返す。

リール固定手順

△ 警告

リール刃は非常に鋭利で、手足を切断できるほどである。

- リールの軌道内に手足を入れないこと。
- リールに作業を行う場合には、リールが回転しないよう確実に固定すること。

ねじ付きインサートを外すためにリールを固定するには

- カッティングユニット左側のシールドボルトをゆるめて後シールドを上げる図 37。
- 長い柄のバール9 mm x 30 cm 程度のドライバータイプのもの。握りのついているものがよいを用

意する。バールは、トルク作業を行う側に近い側で、リールの後ろから差し込むようする図 37。

- リールサポートプレートの溶接されている側からバールを入れ図 37、

注リールのシャフトの上側と2枚のリール刃の背中側にバールを差し込むと、リールが回転できなくなる。

重要リールの刃先にバールを触れると刃こぼれなどを起こすバールを当てないように十分注意すること。

重要カッティングユニット左側のインサートは左ねじです。カッティングユニット右側のインサートは右ねじです。

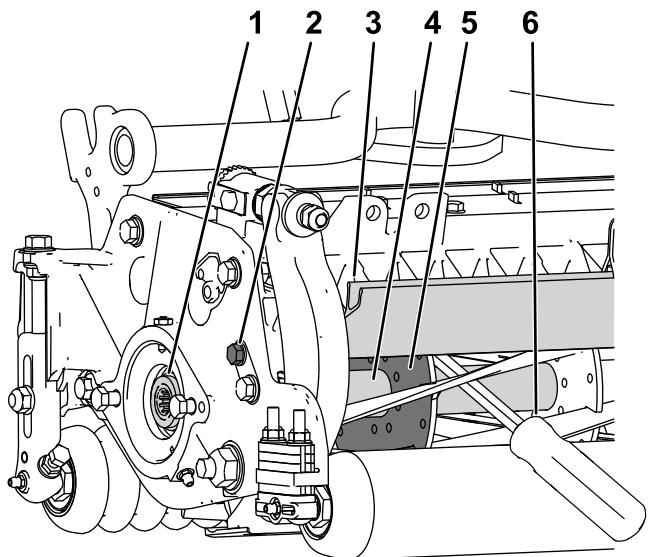


図 37

- 取り外すべきねじ山付きインサート
- シールドのボルトをゆるめる。
- 後部シールド
- リールシャフト
- リール支持プレート
- リールサポートプレートの溶接側に沿って差し入れたバール。

- バールの握り部分を後ローラに載せる。
- バールでリールが確実に止まっていることを確認しながらインサートを外す。作業が終わったらバールを外す。
- 後シールドを降ろしてシールドボルトを締め付ける。

ねじ付きインサートの着脱のために リールを固定するには

1. 長い柄のバール 9 mm x 30 cm 程度のドライバータイプのもの。握りのついているものがよいを用意する。バールは、トルク作業を行う側に近い側で、リールの前から差し込むようする図 38。
2. リール補強版の溶接側からバールを入れる図 38 と、

注 カッティングユニットの前側で、バールがリール刃、リールシャフト、リールの背面に当たってリールをロックする状態になる。

重要 リールの刃先にバールを触れると刃こぼれなどを起こすバールを当てないように十分注意すること。

重要 カッティングユニット左側のインサートは左ねじです。カッティングユニット右側のインサートは右ねじです。

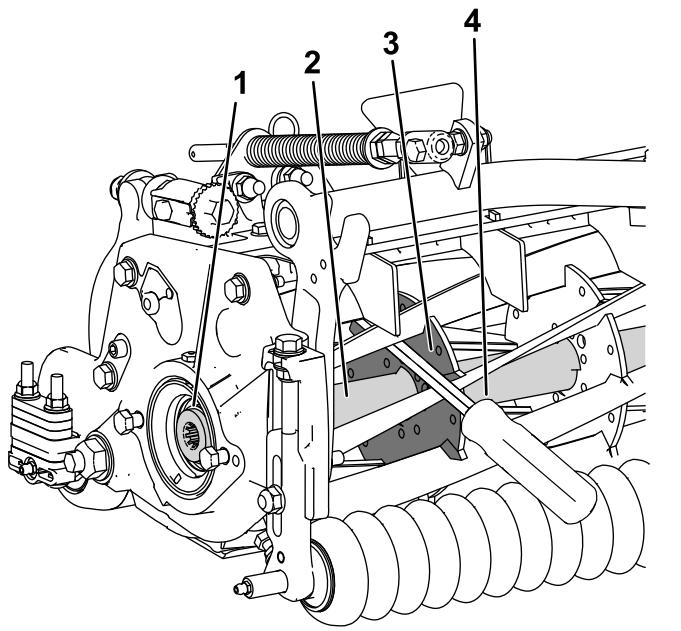


図 38

g280384

- | | |
|--------------------------|--------------------------|
| 1. 取り付けるべきねじ山付き インサート | 3. サポートプレートの溶接側 インサート |
| 2. リールシャフト | 4. バール |

-
3. バールの握り部分をローラに載せる。
 4. インサートに付属している取り付け要領書に従つて取り付けとトルク締めを行い、リールがバールで確実に固定されていることを確認して取り付けを終了し、最後にバールを外す。

組込宣言書

The Toro Company, 8111 Lyndale Ave. South, Bloomington, MN, USA は、以下に挙げるユニットが、以下に列挙する指令に適合していることをここに宣言しますただし、各ユニットに付属する説明書にしたがって、「適合宣誓書」に記述されている所定のトロ社製品に取り付けることを条件とします。

| モデル番号 | シリアル番号 | 製品の説明 | 請求書の内容 | 概要 | 指示 |
|-------|--------|---|--|-----------|--------------------------|
| 03918 | なし 以上 | リールマスター 3550シリーズ 18" および 22" カッティングユ ニット用後ローラブラシキット | RM3550 (3) 18"/ (2) 22" RBR KIT (5 CUS) | ローラブラシキット | 2000/14/EC 2006/42/EC |

2006/42/EC別紙VIIパートBの規定に従って関連技術文書が作成されています。

本製品は、半完成品状態の製品であり、国の規制当局の要求があった場合には、弊社より関連情報を送付いたします。ただし、送付方法は電子的通信手段によるものとします。

この製品は、製品に付随する「規格適合証明書」に記載されている承認済みのトロ社製品に取り付けることによって、関連する諸規制に適合するものであり、そのような状態でなければ使用することができません。

確認済み

権限を有する代表者



Marcel Dutrieux
Manager European Product Integrity
Toro Europe NV
Nijverheidsstraat 5
2260 Oevel
Belgium

John Heckel
上級エンジニアリングマネージャ
8111 Lyndale Ave. South
Bloomington, MN 55420, USA
February 1, 2019